

特 集

炎症性腸疾患アップデート いま外科医に求められる知識と技術

炎症性腸疾患は罹患数が近年も増加傾向にあり、今後も臨床で遭遇することが多くなることが予想される疾患である。炎症性腸疾患の治療は、生物学的製剤の開発に基づく内科治療の進歩により大きく変遷してきており、現在、難治性炎症性腸疾患症例に対しての治療戦略は抗 TNF- α 抗体製剤が中心である。一方で、効果減弱に伴う二次無効の出現や、免疫調節薬併用の適否など、臨床上の課題がみられている。また、内科治療の進歩に伴い、外科手術を要する症例は減少傾向にあるものの、内科治療に抵抗する症例は依然として存在し、未だ外科治療の果たす役割は大きくなっている。三期分割手術、二期分割手術、または一期的手術など、その病態や患者さんの状態により適切な術式選択をしているのが現状である。

内科治療から外科治療への適切な移行時期、外科治療としての吻合法・低侵襲なアプローチ法などについてはさまざまな工夫がみられており、本特集では、これまでの治療法の変遷に基づく現状について解説いただいた。